令和4年度　社会福祉法人 協愛福祉会
施設自己評価表

（保育理念）
Happy+Natural
Happy+challenge

（保育目標）
げんきな子　やさしい子
がんばる子　ゆたかな子

A：よくできている　　B：わりとできている
C：一部改善が必要　　D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	年を重ねるごとに理念等の理解はできていると思う。しかし、難しくとらえてしまい負担と感じてしまうこともあるので、
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	C	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	C	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	B	・子どもからの発信があるクラスについては、子ども達のつぶやきなどを活かし保育に取り入れ、継続的な保育の実現ができていた。0歳児クラスは月齢差があり興味や発信をどう保育の中に取り入れるか悩む時期もあったが、それぞれが楽しめるように工夫し子ども達が興味をもって活動に参加する姿があった。 ・環境については興味あるものからの設定が主流になっている。そのため子ども達も一緒に環境づくりに参加している。また、設定後の安全性についての見直しも職員間で伝え合い行なっている。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	B	
	(6)1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい	C	C	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	B	・食事のマナーをどこまで指導するのかが課題となる（前年度の3歳児はできていたが今年度の3歳児には難しいなど）その時の担任で考え方にも違いがあるため、その時の子ども達の姿から指導法を考えていく方向。また、家庭での協力も必要。 ・クッキングも必ず月に1回ではなく子ども達の主体性をもとに無理なくすすめていきたい。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役割分担	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	B	・自分の役割を理解し責任をもって仕事をしている。しかし、係によっては仕事量に差があるので、担当のの職員に任せるだけでなく何らかの形で協力できるような体制を作っていく。
役員構成	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	B	
研修	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	B	

		評価		現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	C	・挨拶、対応など自分たちではできていると思っていたがアンケートでは厳しい意見が上がっていた。また、業務軽減の観点から考えたことが保護者からすると物足りなさを感じたりと難しい課題もあった。何を求めているのか発信方法など様々な観点からより良い策を考えていきたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	A	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	C	・コロナ禍になってから学校職員の園訪問はあるが、小学校での交流は殆どない。今後は学校訪問など計画していきたい。 ・気になる子どもの対応については、保護者主導・園主導ともに専門機関に繋ぐことが出来た。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	C	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	C	・保護者の中には日頃相談しにくいという意見があった。より良い信頼関係や話しやすい環境づくりに努めたい。 ・法人の子育て支援が定着し多くの親子が参加している。参加者の中で入園希望をしたが入れなかったとの事。様々な集客はできても園の状況などで入園できないという矛盾を感じる。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	C	C	

総合的な現状と課題

・　今年度は「子どもや保護者に寄り添う」ことを目標にしていたため「自分の当たり前は相手にとっては当たり前ではない、言葉を選び丁寧に伝えるように」ということを何度か周知してきた。こちらはできていたと思っていたが保護者には届いていない部分もありそれがアンケートの結果に反映されていた。どう解消していくかが今後の課題となる。また、その解決策も様々な観点と職員の意見も踏まえながら考えていきたいと思う。
・保育については、継続的な保育にこだわり過ぎて負担に感じている職員もいるので、保育を楽しむことを一番に考えるような指導をしたいと思う。保育環境については年々子ども達の興味をうまく活用し室内環境が作らるようになったと感じる。来年度はあそびこめるコーナー作りに取り組むようなのでうまく活用してほしい。
・新型コロナウイルス感染症も5月にはインフルエンザと同じ「5類」へ位置づけされる。保護者からは以前のような対応を求められると思うのでアンケートの意見をもとに行事など内容も含め今後のあり方を検討していこうと思う。

園　名　　風光るゆめの森　　氏名　　池尻　和美